

令和5年度 学校関係者評価委員会 議事録

学校法人日章学園
鹿児島レディスカレッジ

1 日 時 令和6年2月15日(木) 14:00~15:45

2 場 所 本校5階教室

3 出席者 計13名

評価委員(6名)

九州旅客鉄道株式会社 鹿児島支社長(関連業界代表)

南国交通株式会社 常務取締役(関連業界代表)

有限会社アミーコーポレーション 代表取締役社長(関連業界代表)

有限会社ソニック 代表取締役(関連業界代表)

鹿児島女子高等学校長(教育関係)

学校法人日章学園 鹿児島レディスカレッジ後援会 会長(後援会関係)

本校出席者(7名)

校長 参与 教務主任 学生指導主任 学科長(2名) 事務局代表

4 会 順

(1) 校長挨拶

(2) 学校概要説明

(3) 評価結果報告、学生・保護者アンケート(自己評価)報告

(4) 質疑応答・協議

5 協議内容

(1) 企業(社会)が求める人材

(2) 専門学校に求めること

(3) 資格等の取得について

(4) インターンシップ(社会人教育)の在り方

(5) 専門学校と企業との今後の在り方

【主な意見】

・即戦力の養成と言われるが、現場に入ってから2年位は育てる形なので、その際に必要な対話力や対応力を専門学校で身につけさせてほしい。自分から職場の先輩たちに聞いたり相談したりしていくことが大切である。

・若い人たちへの対応はスピード感が必要。その場でしっかりと対応・対処することと、「その行動はお客様から受け入れられるのか」という客目線での指導が効果的である。

・働く楽しさや、やり甲斐が仕事に求められているので、企業の現場も変わりつつある。そのような過渡期にあることを理解して働けるメンタルが欲しい。

・困りごとや要望に気づけることが大切。課題を見つけられる人になって欲しい。課題が見つけれれば、それへの対策はチームとして行うことができる。

・時代やキャリア、将来に対する不安があり、転職に対するハードルも下がっている。職場でも雑談の機会を通じて、若者の気質の変化を理解できるように工夫している。

・コロナ禍で中学時代を過ごした生徒が入学してきたが、対人関係をうまく作れない生徒が増えている。忍耐力や対話力は高校でも育てにくい環境になっている。本音・本当のところをしっかりと教えていくことが大切である。

・社会に出ると理不尽なことに出会うことがある。専門学校でもロールプレイなどで対応の練習をするなどして、胆力をつける訓練をしていくことも必要だと考える。

6 今後の予定

・協議において提言をいただいたものは、今後の学校運営に反映したいと考えている。

・今回の学校関係者評価委員会における評価結果及び議事録については、HPに掲載予定